

掬水

きくすい

題字・佐藤重義

第 50 号

令和5年7月29日発行

〈事務局〉

秋田市手形学園町1-1

秋田大学教育文化学部

同窓会旭水會 内



三年間の空白

秋田市退職校長会 会長 高橋 一郎

全国的に、あるいは世界的に大変だったコロナ過から解放されようとしています。まだまだ樂觀はできませんし、もつと厳しい感染による蔓延があるかもしれません、やっとなし落ち着いてきたというのでしょうか。しかし厳しいものですね。あんな小さなウィルスに人間社会が振り回されたのですから。

令和4年度の会報第48号に「慣れ」について書きました。人間は慣れることによって生活しやすくなっているのかもしれませんが、しかし、社会全体が慣れることによって怠惰になつてはいけません。三年間の空白は、この慣れることによって、組織的な空白になつてしまったようです。第48号に、社会的な生活の楽しさが、何もしないことによる慣れによって、孤独な老人生活に陥つてはいまいかと書きました。孤独な生活は人とかかわりが生じませんから、ある面では楽しい生活ですが、そこに安住してはますます老いてしまいます。楽しい会話や飲食がいかに大切であつたかを、コロナは教えてくれました。

冒頭にも述べましたが、幸いなことに、コロナが2類から5類になり、インフルエンザと同等の位置づけがなされました。我々の秋田市退職校長会も、やっとなし活動ができるようになったのだと思います。

まずは、第28回現職・退職校長会教育懇談会が令和5年11月18日に開催されます。令和2年度からの三年間はコロナ禍のため、実施できずにありました。この三年間の空白は実に大きいことでした。この教育懇談会の存在を知らない現職の校長先生が増えてきていたのです。学校生活の中で、校長の存在は大きく、ただでさえ多忙な毎日、退職校長たちと交わるなど、とんでもないことと密かに憂いている方もおられるのではないかと邪

推してしまいます。この会に参加する退職校長たちは、決して先輩風を吹かせませんし、真に現職の応援団でありたいと願っているのです。そのための事前打ち合わせをしっかりと行つて、何が共通の話題になり、現職の学校運営の手助けになるのかを探るのです。退職校長たちは、現職の方々と交わることで、学校生活と校長であったことに思いをはせ、話し合うことに喜びを見い出しているのです。安心して参加ください。

さらには、楽しい研修があります。美術、音楽、お酒などの集いを行っております。コロナ禍のため、仰々しい会にはできませんでしたが、少人数で楽しみました。私も、張り切つて参加しました。まず、陶芸体験があります。専門の講師の先生が指導してくださいますし、両手にあふれるくらい粘土に挑戦するのです。参加者はある程度のイメージを持つて来ていますが、一筋縄ではいきません。そこがまた楽しいことですし、出来上がってきた作品は驚くほど美しいものです。音楽鑑賞は、アトリオンで行われるコンサートなどです。パイプオルガンによる演奏や秋田出身の音楽家による声楽などがありました。そして、秋田の名酒飲み比べです。普段飲んだことのない日本酒が次から次と出てきます。日本酒を飲み慣れていない方も、喜んで参加していただきました。会員の方はもちろん、現職の校長先生方、ぜひこの楽しい研修に参加ください。期待以上の成果を得てお帰り願えると思います。

三年間の空白を埋めるのはたやすいことではありません。でも、思い切つて飛び込んで来てくだささい。秋田市の退職校長会は、校長を経験したものが醸し出す、素晴らしい組織です。知る辺の方々を誘い合つて、時には教育の話をし、時には互いに楽しみを分かち合つて過ごしてみませんか。

令和五年度総会について

今年度は、四年ぶりに総会を開催しました。そこで議案審議し、承認をいただき、活動をスタートしました。

令和四年度会務報告

月日	事項
四・一九	第一回幹事会(県・市合同)
四・一四	会計監査 新年度組織分担等
四・二三	理事会(コロナ禍のため総会は中止)
五・二一	第二回幹事会(会報の内容検討等)
七・三〇	会報「掬水」第四十八号 「楽しい研修」案内 発送
八・二〇	第三回幹事会(中止)
十・一五	第四回幹事会(会報の内容検討等)
十一・五	楽しい研修「陶芸体験」(参加者五名)
十一・十二	第二十七回現職・退職校長会教育懇談会 (次年度に延期)
一・一四	第五回幹事会(入会案内等について)
一・三一	現職校長会に入会案内 (高橋会長 出席)
二・一一	楽しい研修「秋田の名酒飲み比べ」 (参加者十四名)
二・二五	第六回幹事会(次年度の組織事業の検討)
三・二五	会報「掬水」第四十九号 発送

令和五年度事業計画

一	会幹事会 年六回
二	会計監査 四月十三日(木)
三	理事会・総会 四月二十二日(土)
四	会報「掬水」第五十号発送 七月二十九日(土)
五	「楽しい研修」 九月・二月
六	現職・退職校長会教育懇談会十一月十八日(土)
七	現職校長会への入会案内 一月三十日(火)
八	会報「掬水」第五十一号発送 三月二十三日(土)
九	叙位叙勲 随時
十	慶弔 随時

講演会

演題

「秋田市学校教育の現状と今後の施策について」

秋田市教育委員会

教育次長 長谷山庫之氏

1 コロナ禍について

令和二年二月二十七日に文科省から突然の全学校休校の指示があったのは忘れられない。情報量が少なく準備の時間がなかった。まだタブレットも配布できていない時であった。現場の先生方は、とにかく自学プリントの準備に追われた。三月から五月連休まで休校が続いた。

初の陽性者発生時の混乱は大きく、感染症対策も手探り状態。担任は、検温・消毒作業に追われ、教育委員会は卒業式に保護者を参加させないとの方針を示す。苦情の電話が鳴り止まなかった。

令和二年度の中総体は交流試合となり、修学旅行も日帰りとした。運動会や学習発表会は学団ごと。給食は前を向き、黙食が三年間続いた。子どもたちの学校生活は犠牲となる。



大人の一年と子どもの一年は同じではない。教育委員会では早速学級閉鎖の基準作りを始めた。学級に複数の陽性者がいれば閉鎖とした。また、修学旅行のキャンセル料も補助した。

令和三年度は学級閉鎖期間が五日間だった。タブレットを配布し、持ち帰り可能としたが、家庭ではWi-Fi環境が整っていない状況であった。現在Wi-Fi環境が整っていない家庭は3%。また、閉鎖基準も5月4日以降はインフルエンザと同じく学校の10%15%とした。学級内という5~6人陽性者ができれば学級閉鎖とした。しかし今後もマスク着用は続くのではないかと考えている。

2 中学校部活動の地域移行について

学校単位から地域単位のクラブへ移行する理由は、少子化の影響から部活動が学校単位では維持できないことと、中学校教員の負担軽減にある。しかし課題は山積している。

本市では令和六年以降、休日の部活動から地域移行を考えている。移行可能な種目から始め、学校単位での部活動は原則平日とする。現在、受け皿団体の体制づくりを進めている。

3 GIGAスクール構想の実現について

GIGAスクール構想とは、2019年に開始された全国の児童生徒一人に一台のコンピュータと高速ネットワークを整備する文部科学省の取り組みである。タブレットの使用は目的ではなく手段であるが、それを理由に使わない教師もいる。秋田市では20名のICT支援員を採用し、専任指導主事2~3名で学校訪問をしている。この取り組みは今年で

3年目となる。今後はタブレット端末を持ち帰らせ、授業だけで完結しない学びを展開したい。また不登校支援での活用も考えている。

4 今年度の新規・拡充事業等について

法改正により喀痰吸引や導尿等が必要な児童への医療的ケア支援事業に取り組み。そのために医療的ケア看護職員を配置する。小中学校の不登校児童生徒は令和4年度で628名。病気を含めて教室に入れない児童生徒を含めると約1000名いた。学級支援サポート1は対象児童生徒1100名以上に対して232名を採用している。一人で5名を担当することになる。ALTEは現在37名。

課題は、まずいじめについて。学校の対応は非常にいいのである。しかし、最近はその間において訴えられるという傾向にある。2、3年後にあの時こうだったと訴えられ、その対応に苦慮している。またPTAへの加入問題がある。PTAに入らない保護者が出てきた。在学中ではなく、入学時にどうするか決めることが重要でないか。制服やトイレに関してLGBTQへの対応も課題である。

(以上)

現職・退職校長会教育懇談会が中止となったこともあり、この3年間、学校で何が起こっているのかわかりませんでした。お話からコロナ禍での学校現場の混乱ぶりを知ることができました。また、かつては考えられなかった新たな難題に直面し、日々まさに闘っている秋田市教育委員会の奮闘を知ることができました。学校は教育委員会に守られていることを実感した講演会でした。

秋田市退職校長会入会者

振り返る余裕もなく



嶋崎 公人

コロナ禍がようやく収束に向かう一方で、不登校の急増や教員不足問題、部活動の地域移行など、学校を取り巻く新たな課題が次々と表出していることに、学校を離れた立場ではありますが、気持ちが沈みます。

そんな中、四月から秋田公立美術大学に勤務することになりました。幸い、同じ職場に齋藤透先生や加賀谷亨先生がおり、様々なことを相談しながら、教員免許の取得を目指す学生を相手に、忙しく過ごす毎日を送っています。作品制作や教育実習に真摯に取り組む学生から、少し元気をもらっています。



加賀谷 亨

よろしく願いいたします

この四月から、秋田公立美術大学で教職課程を履修する学生のお手伝いをしています。

現職の頃、中学生諸君には「感動やあこがれ、驚きや尊敬といった思いを抱いたとき、その心の動きを『ヤバイ』や『スゴイ』で、ごまかしてはいけない」と、偉そうに話していたくせに、学内を眺めるにつけて口が出るのは「すごいなあ!」でした。

言葉は常に自分自身に戻ってくるのだと改めて思い知らされています。

諸先輩の皆様、お世話になります。どうぞよろしく願いいたします。

よろしく願いします



小玉 智

現職の際には、先輩の皆様方から温かいご指導をいただき、ありがとうございました。四月からは、会計年度職員として「まんたらめ」に勤務しております。不慣れなことも多く、新米職員として学ぶことの多い毎日です。それでも、緑豊かな自然の中で、利用者（市内の小中学生が中心です）と関わりながら過ごせることが楽しく、大変ありがたいと感じております。使用者一人ひとりの学びや笑顔、よき思い出づくりの一助となれたらと思っております。

今後とも、どうぞよろしく願いいたします。



稲田 修

時間の使い方

スケジュール表を見ながら仕事をするのが当たり前の日々から離れてみて、時間の使い方の難しさを感じています。自分の時間が増えたことを幸せに感じつつ、やることを模索している毎日です。

四月からは、太平洋山自然学習センターにお世話になっています。今年から宿泊利用が再開し、サポーター役を務めています。子どもたちが自然の中で、仲間と一緒に笑顔を笑顔で活動している姿を見て、元気をもらっています。会員の皆様、これからお世話になります。どうぞよろしく願いいたします。



よろしく願いいたします

奈良 恵子

三十八年間の教職員生活で多くの方々に出会い、たくさんの方の事を教えていただいたことに心から感謝しております。
退職後は、困り感を抱える生徒や保護者を支援し続けたいと考え、カウンセリングの学習を始めました。現在、会計年度職員として「すくうる・みらい」に勤務し、不登校児童生徒の相談支援に努めるとともに、能代市の中学校でスクールカウンセラーとして週一回勤務しております。先輩の先生方には、これまで同様ご教示いただきますよう、今後ともどうぞよろしくお願い致します。



よろしく願いいたします

渡辺 政文

これまでたくさんの先輩の皆様にご指導を賜り、無事退職を迎えることができましたことに心から感謝申し上げます。
今年度4月からは、学校教育から社会教育へとシフトし秋田市の会計年度任用職員として南部市民サービスセンターに勤務し、生涯学習の学級を担当することになりました。市民の皆様と共に学び合うつもりで各学級の講座の運営に携わり、大変充実した日々を送っております。担当する学級は、家庭教育学級・成人学級・高齢者学級の3クラスで学校教育とはひと味もふた味も違う社会教育の奥深さを追求するため日々の業務に前向きに楽しんで取り組んでおります。
会員の皆様、今後ともどうぞよろしくお願い致します。



よろしくおねがいします

齋藤 渉

退職前、難しい判断を迫られた際には、皆様からのお話に何度も救われた気持ちになりました。本当にありがとうございます。
春からは、「すくうる・みらい」に勤務しております。幸いにも校長会でお世話になった先輩や同輩、新たに出会った温かいスタッフの方々と同職させていただき、共に子どもたちの支援に当たっております。自身は、こしばらく学び直しの毎日ですが、子どもと直接ふれ合えることに喜びを感じています。
会員の皆様には今後もお世話になります。どうかよろしくお願い致します。



よろしく願いいたします

濱松 寿

三年に及ぶコロナ禍が収束に向かい、学校がこれまでの日常を取り戻し始めた報道に、ほっとした気持ちになります。現職中は、諸先輩の皆様から、温かな励ましやご指導をいただき、ありがとうございます。
四月からは、会計年度任用職員として、秋田市環境部環境総務課に勤務し、あきた次世代エネルギーパーク施設見学会や小中学校や児童センターなどで、環境学習をサポートする仕事に取り組んでいます。
会員の皆様にはこれからお世話になります。どうぞよろしくお願い致します。

令和五年度 秋田市退職校長会役員

顧問	佐藤 重義	千葉 昭
会長	佐藤 俊彦	
副会長	高橋 一郎	
監事	伊藤 栄二	
理事	羽川 眞理	高田 均
県代議員	松山 孝雄	村上 悦孝
幹事	加賀美 重幸	鎌田 重幸
幹事	阿部 英子	今田 正俊
幹事	角田 昭	智範 鈴木
		学 巧

現職校長会役員の紹介

市会長	星野和貴(日新)	谷村 拾(泉)
副会長	菊田 靖(旭南)	筒井裕一(飯島)
	齋藤 彰(牛島)	坂谷 陽(秋田東)
	村山公昭(築山)	

祝 叙勲

瑞宝双光章(教育功労)
岩見 誠夫 秋田市広面
石黒 善雄 秋田市浜田

○「楽しい研修会・同好会」への案内

会員相互の親睦を図るために、次の研修会を開催します。併せて、同好会員の募集も行います。関心のあるもの、この機会にやってみようかなと思うもの、など、お一人何回でも(いくつの同好会でも)参加できますので、ぜひ、ご参加ください。

【楽しい研修会】

- ①陶芸 工房見学と陶芸体験
 - ②酒蔵探訪
 - ③秋田の名酒を飲み比べ
 - ④アトリオンコンサート
 - ⑤赤レンガコンサートや手作り講座
- 【楽しい同好会】
- ①写真同好会
 - ②酒蔵応援同好会
 - ③音楽鑑賞同好会

(連絡先は別添に記載してあります。)